

「新潟市民病院医誌」投稿規定および執筆上の注意 (2022年8月改正)

投稿論文

1. 投稿者は原則として当院職員及び当院との関係者の投稿とする。
2. 投稿論文は総説、原著、症例報告、特別寄稿、経験、統計、記録、抄録などの医療に関するものとし、他誌に発表されないものに限る。
3. 論文の採択に関しては、編集委員会メンバーおよび編集委員会が依頼する査読者の複数名で査読を行い、委員会での審査により採否を決定する。査読の結果、原稿の一部改正または訂正を求めることがある。論文の採否決定のほか、掲載順の決定についても編集委員会が行うこととする。
4. 論文の内容は著者の責任とする。
5. 掲載論文の著作権は、掲載決定日を起点に新潟市民病院に帰属する。
6. 投稿論文の執筆にあたっては、下記の注意事項に従うものとする。

原稿の作成と提出

1. 原稿はパソコンを使い、以下の規定により作成する。
 - 1) 原稿は全てA4サイズとし、1頁に600字詰め(25字×24行)とする。本文、図表の中のフォントは、極力JISコード体系以外の外字を使用しない。
 - 2) 欧文、数字、小数点、および斜線(/)は半角物を使用する。
2. 原稿の提出にあたっては、プリントアウトした原稿を表題頁、抄録、本文、文献、図説、表、図、写真(コピー不可)の順にまとめたものを1通と、原稿を電子ファイルにしたものを添付する。CD-R、USBメモリなど。

論文の体裁

投稿論文は以下の体裁を整えていなければならない。

1. 表題頁

表題頁には、論文の種別(総説、原著、症例報告、記録、その他)、表題(略語使用不可)、著者名(漢字、ふりがな)、所属機関、図・表・写真の枚数、

カラー印刷希望の有無を明記する。表題は英文、著者名はヘボン式ローマ字でも記載する。なお、英文表題中の各単語の頭文字は大文字とする(冠詞・前置詞は除く)。

2. 抄録

- 1) 抄録は原著と症例報告で必須であり、抄録には目的、対象と方法、結果、結論を簡潔・明確に記載する。
- 2) 原著で和文800字以内相当、症例報告で400字以内相当とする。

3. 論文

- 1) 原著論文は目的、対象と方法、成績、考案(考察)、結論、抄録を含み、原則として本文のみで9,000字以内とする。症例報告は目的、症例、考察、抄録を含み、5,000字以内とする。
- 2) 人体を対象とした研究においては、その人格権を尊重し、その研究内容の説明を行い同意を得ることを原則とする。
- 3) 「方法」では統計解析の方法を明記する。
- 4) 文章は「である」調とし、平易でわかりやすい表現とする。
- 5) 和文では話ことばは避けること。日本語を使用し、やむをえないときはかたかな書きとする。
例: sensitivity→感度、data→データ
- 6) 外国の地名、人名は原則として原語で書く。
- 7) 数字は算用数字とし、度量衡はCGS単位を用いる。(単位記号はmm、m²、ml、mg、mmHg、Cal、g/dl、sec、hrのごとくにし、省略点はうたない)
- 8) 年号は、西暦を原則とし、元号を使う時は20XX年(〇〇Y年)とする。
- 9) 略語の使用は認めない。やむをえず使用する際には、文中で頻回に用いられる長い述語で、習慣的にも用いられる2、3の略語のみとし、その語が用いられる最初の箇所でその内容を明記する。
- 10) 文献は引用したもののみとし、本文中の引用箇所に右上肩付きで、引用順に1) 2) のように記載する。

11) 図表の挿入箇所を本文中のほか、欄外にも朱筆する。

4. 文 献

文献は、引用順に文献欄に列記し、その形式は次のようにする。

1) 雑誌の場合は、引用番号) 著者名: 表題、雑誌名 (省略名はIndex Medicusと医学中央雑誌に従う) 発行年 (西暦); 巻: 最初のページ-最後のページ。

著者名は最初の3名まで記載し、それ以上の場合は“ら”または“et al.”とする。

2) 単行本の場合は、引用番号) 著者名: 書名. 版数. 発行社の所在地: 発行社, 発行年; 引用ページ。

3) 分担執筆による単行本の場合は、引用番号) 著者名: 分担執筆部分の表題. 編集者名. 書名. 版数. 発行社の所在地: 発行社, 発行年; 引用ページ。

例1) David BS, Mark KF, Alex GL, et al: Selection of operation for esophaegal cancer based on staginb. Ann surg 1986; 204: 391-401.

例2) 根室郁夫、佐藤猛、白川健一ら: Distal Myopathyの1例. 臨床神経 1963; 3: 387-393.

例3) Hurst JW: The Problem-oriented System. No.3. New York: Medicom Prese, 1972; 76.

例4) 松永英: 日本に於ける遺伝相談の頻度. 日暮真編. 遺伝相談. 小児科MOOK32. 東京: 金原出版, 1984; 1-11.

例5) Dorken B, Moller P, Pezzuto A, et al: White cell differentiation antigens. Knapp Weds. Lymphocyte typing. 4. Yew York:Oxford University Press, 1989; 109-110.

5. 図 表

1) 図表の中で使用する略語は説明の中で内容を明記する。図表の説明文は別紙に清書する。

2) 原則としてオリジナルのものを使用すること。他の雑誌、書籍などから図表を引用・転載するときには、出典を文献の記載方法と同じ要領で図表

の説明の中に明記する。

3) 論文および図表の説明文とは別の包装とし (特殊なものを除き、台紙は貼付する必要はない)、各図表の裏面に上・下の印と図表番号、筆頭著者名を濃い鉛筆を使用して、薄く書く (ボールペンは不可)。

図表はデジタルファイルおよび印刷体を提出すること。図・写真はコントラストの明瞭なものとする。図表には再現困難なハーフトーンを用いず、白黒は2階調、斜線ないしは柄模様を使用すること。

写真: 原則としてキャビネ版 (18×13cm) 以上の大きさとし、コントラストの明瞭なものが望ましい。

4) 被写体の人格権はこれを尊重し、個人情報保護に十分配慮する。

5) 光顕写真には染色方法を付記し、電顕写真にはバーを入れる。

6) CT、MR imageにおいては、左 (L)、右 (R) を明確に示す。

7) カラー掲載は原則として、著者の実費負担とする。ただし、医誌編集委員会によりカラー掲載が好ましいと判断した場合は、この限りではない。

校 正

1) 校正は3校迄として、通常再校迄著者が行う。校正の期限は守る。

2) 校正範囲は誤植のみとし、大幅な変更は避ける。写真については変更を認めない。

別 刷

掲載論文の別刷は希望者のみ30部迄無料とし、これを越える分については有料とする。希望の有無、必要な追加別刷部数の連絡は「ゲラ校正」時に行う。

刊 行

本誌は年に1回以上とする。

原稿提出先

新潟市民病院教育研修室 新潟市民病院医誌編集委員会